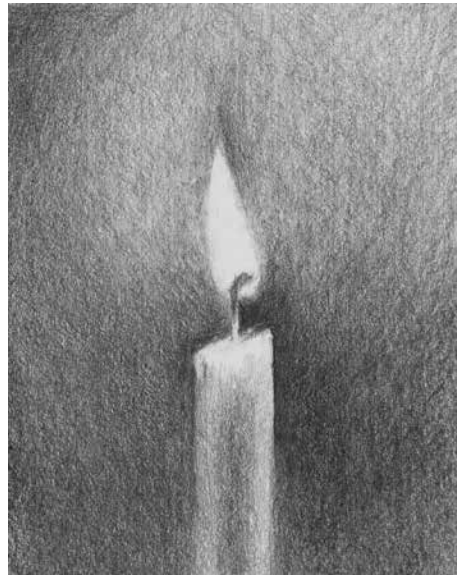




カトリック町田教会
町田市中町 3-2-1
電話 042-722-4504
FAX 042-722-4512

いかずちの子
http://www.machida-catholic.jp/



マリアは男の子を産む。
あなたはその子をイエズスと名づけよ。
その子は自分の民を罪から救うかただからである。(マタイ 1:21)

ぬばたまの

主任司祭 林 正人

まもなく、激動の二〇二〇
年が暮れようとしています。
本年幕開け当初、かかる一
年を過ごすことになるうとは、
一体誰が想像したでしょう。
東京オリンピック…日本各
地に外国人観光客が溢れ…
光り輝き、希望に満ちた未来
への扉を開く年…。しかし、
蓋を開けてみれば、今年日本
を、そして世界を覆ったのは
「闇」でした。

の、信頼を寄せることが必
要です。何よりも、私たちが
私たち自身を「過信」せず、
基本的な感染症対策を日々積
み重ねることが大切と考えま
す。
そしてもう一つ、キリスト
者たる私たちは、このコロナ
禍を「酷い一時期」で終わら
せることなく、少しでも私た
ちのヒント、キリスト者とし
てふさわしく生きる「糧」に
できないか、考えるべきでは
ないでしょうか。
私自身で言えば、このコロ
ナ禍で具体的に自分にも困
難が訪れたことで、「自分は、
毎年のように起こる災害で被
害を受けた人や地域に心を合
わせ、祈っていただろうか」と、改めて振り返り、反省す
る契機となりました。
確かに、私たちにとつても
辛い一年でした。しかし、例
えば福島県の双葉町や浪江町
は、十年近く、困難の中にい
るのです。「がんばろう」「つ
なげよう」「絆」等々、自分
も計画停電や食料不足の最中
にある時は、「苦しむ者の一
人」として被災地と心を合わ
せ、祈っていました。現在
はどうなのか…今や『あ
の』震災』になつてはいない
か。未だ多くの『この』震
災』を生きている方々がいる
というのに。

私自身、大いなる悔恨の情
と共に皆様に呼びかけたの
は、この一年、新型コロナナ
によつて困難を強いられた私た
ち、その苦しみを胸に、改め
て地震、水害、その他多くの
災いによつて、長い長い間苦
しみの只中にいる方々に心を
向け、祈ることです。苦しみ
の中にある時こそ、更に苦し
い状況に置かれている人々と
一致する。それが、私た
ちキリスト信者の役割ではな
いでしょうか。
暗い一年の終わりに、今年
も主イエス・キリストがやっ
て来られます。身重の体での
旅を強いられ、ようやく到着
した地で人々に拒絶され、人

新しい生活様式の日々

運営委員会 喜多 寿子

10年ほど前に喜多見教会か
ら転籍し、今年度初めて町田
教会で運営委員をさせていた
だき活動グループを担当して
います。喜多見教会所属の頃
は、よく「喜多見教会の喜多
です」と少しだけ受けをね
らつて自己紹介していました
(全く笑いはとれませんでした
が)。
約15年前に、夫の広島転勤
で3年間ほど世界平和記念聖
堂(幟町教会)のミサに通
いました。教会のすぐ隣は
聖エリザベト音楽大学があり

間の泊まる場所ではない、家
畜の住まいで子を産み、その
餌箱に寝かせる…。「何故、
こんな酷い目に遭わなけれ
ばならないのか」、マリア様、
ヨセフ様も夜の帳の中、そう
思っていたことでしょうか。
しかし、そんな夫婦の許に、
そして総ての闇にもがく人々
の許に、救い主は来られました。
自らも闇にまみれること
によつて、より明るい光を世
界にもたらされました。
イエス・キリストの降誕の
恵みによつて、来る年、町田
教会に、日本各地の被災地に、
苦しむ人々に、全世界に、闇
を打ち破る光が差し込みます
ように。

「いらっしやい！」と信者さんたちに温かく迎えていただき、慣れない土地なのに楽しそうに過ごす私に何かを感じたのか、宗教否定派だった夫が教会に同行するようになって、いつしか聖歌を歌い、次は入門コースと自然な流れになりました。このまま幟町教会で洗礼かなと思っていた矢先に転勤辞令が出ました。残念に思ってた後のことを神父さまに相談すると、「特に男性は家から近い教会がいいですよ」と勧められたのがきっかけで、二人で町田教会に通うようになりました。

今年新型コロナウイルスの感染拡大防止の「新しい生活様式」の日々です。人に近づかない、話さない、食事中は料理に集中です。顔半分はマスクで覆われて表情筋を發揮できません。こんな生活に溜息が出ますが、教会に行く度に聖堂の消毒を進んでお手伝い下さる方、慣れない運営委員の仕事は快く手伝ってくださる方の優しさに触れ、そして「今はがまん、がまん」と励まし合うことができ気持ちに楽になります。

残念ながら、まだ活動グループの教会での活動再開の見通しはついていません。そして今後も消毒のご協力をいただくこととなりますが、来

年のクリスマスにはマスクを外して表情筋フル活用でお祝いできることを信じて楽しみにしています。

コロナ下での典礼に
関わる教会活動

典礼委員長 遠田 治正

新型コロナウイルス対策のために2月末から6月末まで中止となっていた公開ミサが再開され、9月からは高齢者も参加できるようになりました。感染拡大が収まっていなかったために、ミサ以外の教会活動再開にはまだ程遠く、信者がにぎやかに集う町田教会の姿はまだ取り戻せていません。

ミサ再開とはいえ、感染対策は重要であるために、典礼関係においても信者の奉仕については、ミサ前後には香部屋に立ち入らない、聖体奉仕は行わない、侍者も子供は行わない、オルガンは弾かない、教区の指導に従って聖歌は歌わない、などの制約を設けてきました。

しかしながら同時に、典礼の役割を担ってきた奉仕者が活動できなくなると、お休み状態に陥るといふ弊害も生じてきました。この教会の典礼関係は、これを支える人たちの経験と訓練による奉仕で成り立っているのですが、その蓄積したものが忘れられてい

カトリック中央協議会

行方 教皇フランシスコのメッセージ

2020年第4回(20.11.15)「貧しい人のための世界祈願日」から (イラスト: 池永廣美)

突然やってきた! パンデミック

先行が見えず、自由の制限、環境の破壊、大混乱、無力感

貧しい人のための世界祈願日

片隅に追いやられた人、ご自身も馬小屋で御子を産んだから! 困難と苦しみをよくご存じ、分かち合い、献身

愛、奉仕

死と復活によって与えられた自由、他者に負った責任を負う、もっとも貧しい人

「立く人と共に泣き、悲しむ人と共に悲しめ」(シラ書 7:34)

互いを必要としていること他者と世界に対して責任を共有していること...こうした確信を取り戻さなければ!

へロデ王の迫害から他国に逃れ数年間難民として暮らしたから社会の片隅に追いやられた人の困難と苦しみをよくご存じの貧しい人の母であるマリアへの祈りにより

マリアの愛する子、キリストの名において仕える人

1つに結ばれますように

差し伸べられた手が分かち合いと兄弟愛による抱擁へ! 取り戻された

くと、せっかく築いてきた機動力も失われていくことになりかねません。そこで典禮の奉仕に関わっている人たちを中心に、再開ミサでの厳しい制約の中でも、次のような対策を講じました。

町田教会は神学生が研修に来ることが多く、その場合には司祭の補助をしてきています。そこで先唱と侍者の役目は神学生に頼っていました。が、しかし信者として典禮の進行に積極的に関わっていただけるように、7月末から先唱奉仕は聖体奉仕者を中心とする奉仕者が、地域ブロック別という制約を越えて担当するように変更しました。これからも若い方を中心に奉仕者の範囲を女性の方にも広げていき、教会の典禮を支えるという重要な役割を担っていただきたいと思います。

さて、時期としてはこれから主の降誕と新年を迎えます。参列者の増加は必然的です。高齢者の年齢制限は一応解除にはなりましたが、感染すると重症化しやすい年齢層です。ので、こうした方々が待降節や新年に安心してミサに与ることができるよう、今から十分な配慮と環境整備を行っていき、この時期を信者として楽しく過ごせるようにしたいと考えています。

ぶどう園の労働者のたとえ

地の星 安達理恵子

その昔、聖書の「ぶどう園の労働者のたとえ」(マタイ20、1-6)を神父さまとお勉強していました。この「たとえ話」を私なりに要約すると次のようになります。

《ぶどう園主が働く人を雇うために朝早く出かけて行き、職を求める人々を1日1万円の契約で全員採用した。9時頃行くともた職を求める人々がいて全員採用した。更に12時と3時にも見に行き同じようにした。もうこれで職がなく困っている人はいないだろうと思いつつ、夕方5時に見に行くと何人かが途方に暮れて立っていた。》

その人達とも1万円で契約した。仕事が終わわり、最後に契約した人から1万円ずつ支払った。ところが、朝早くから働いている人から不公平だと文句が出た。しかし、ぶどう園主は契約どおりであると云って取り合わなかった。労働問題ではなく、神学的な意味があるのでしようが、私も不公平だ、と神父さまに言いました。長い年月の間に何回も解説を伺いましたが、心からの理解には至りませんでした。

ある日、ベロニカ苑のお母

さんが「お宅の息子さんはいいわね。働かなくても年金が入るんだから」そうご近所の方に言われたとお話になりました。障害が治るなら年金なんか倍にして返すのに、と悔し泣きです。お母さんを慰めながら「ぶどう園のたとえ」を思い出していました。気持ちの中に何かがストンと落ちたように納得できたのです。

聖書が社会福祉の充実を述べ伝えていられるではありませんが、夕方途方に暮れていたのは私の仲間です。沢山働くとか社会の役に立つとか関係なく、生命の尊さは勿論、神さまに愛されること、毎日生

き生きと暮らしたいという思いは皆同じです。

【編集より】コロナ禍のなかで、途方に暮れてクリスマスを迎えようとする人たちに思いを寄せ、「ベロニカ苑」機関誌(2018年5月)から引用させていただきました。



ブラジル

グロリア 藤沢 (Gloria Fujishawa)

皆様、クリスマスおめでとございます！
まだ早いかもしれませんが、12月25日まであつという間

私はブラジル、リオ・デ・ジャネイロ出身です。クリスマスは真夏です。サンタさんは、暖かい服装で、リオのマラカナン・サッカースタジアムに、ヘリコプターに乗ってやって来ます。私もその場所に行つて、サンタさんの到着を待った思い出があります。

でも、私のクリスマスの思い出は、サンタさんよりもクリスマス準備でした。母はポルトガル出身なので、24日の昼間は母と兄と一緒に、クリスマスによく食べる鱈のロッセやフレンチトーストな

特別寄稿

喜びなさい、大いに喜びなさい

北町教会主任司祭 田中 昇

「恐れるな。見よ、全ての民に与えられる大きな喜びを、あなた方に伝える」(ルカ2・10)。

教会はいつでも、また主の降誕を祝う際には特にこの上ない喜びを告知してきました。キリスト者とは、どこを見ようが、何を経験しようが、そこに主を見出し、主にあつて小躍りして喜ぶものです。私たちが罪と死の苦しみから永遠の命へ招かれた主が来られたこと、まさに今日、かつてと同じように闇の中を歩む人類の光として主が人となつて来られたことを私たちはあらためて耳にします。「さあベツレヘムへ行こう！」(ルカ2・15) 私たちは暗闇の只中であつて、自分にとってベツレヘムと言える場所に敢えて出かけて行かなければなりません。

せん。そしてこの目で見て、主の訪れを悟り、信じるように、天使と羊飼いの喜び、マリアとヨセフの聖性へ、共にいてくださる主(インマヌエル)と共にある聖家族の幸いに加わるように招かれています。キリスト者はその初めから今日までいかなる時も主と共にある者なのです。今日、私たちが類は物的にも精神的にも大きな苦難を経験しており、ある意味で信仰が試されています。でも真のキリスト者は試練を経てこそ信仰をますます確信してきたのです。だから今こそ恵みの時、今日こそ救いの日なのです。さあ今こそ希望をもって信仰の内なる愛の火を消さずに主と共に歩み続けましょう。私たちが世の光として輝く者なのです。救い主は信じる者の集いにいらっしゃる！

ど、いろいろなポルトガル料理を作っていました。

夜のミサでいっぱい歌って、ミサ後は家に帰って、家族みんなと一緒に食事を食べていました。クリスマス料理に使う食材には、ブラジルでは手に入りにくくて、普段食べられない栗、くるみ、なつめを使っていたので、兄と父は、くるみの殻を割る競争をしていたことも楽しかった。

真夏の中でも一日中家族といるいろいろな料理を作って楽しかった事が忘れられません。

日常では食事に関して厳しかった母が、クリスマス料理をととても大事にしていました。その日だけは、お料理の手伝いをしながら、つまみ食いも自由でした。

私は、シャワーを浴びて、クリスマスプレゼントとしてももらった新しい服を着て、教会へ行っていました。

ブラジルの教会では、クリスマス前の1カ月前からクリスマスの意味を考える聖書勉強会がありました。食べ物、服、家の飾りだけではなく、心の準備もしていました。

今考えると、クリスマスに、イエス様と家族みんなが一緒にあって、楽しく過ごした思い出は、イエス様からの最高のプレゼントです。

スリランカ

ラクマル・フーナンド

(Lakmal Fernando)

私の国は、世界でも小さい島国のひとつで、インド洋に囲まれていることからインド洋の真珠と呼ばれています。昔は、セイロンと呼ばれていましたが、現在はスリランカ民主主義共和国という国名です。1948年から1948年まで、セイロンはいくつかの異なるヨーロッパ諸国の侵略にさらされました。スリランカは仏教国です。カトリックは、1505年にスリランカに伝来しました。カトリック教徒は人口の約6%です。沿岸部にあるネゴンボという町は、リトルローマとしても知られています。

さて、12月初めには、街中がクリスマスモードになります。教会のクリスマスツリーは、神父様と子どもたちが、一緒になって飾りつけを行います。クリスマスはカトリック教徒に限定されていません。多くの仏教徒の家にも、特に小さな子どもがいる家では、天然木を使ってクリスマスツリーを飾ります。天然木の香りがクリスマス気分を盛り上げます。海外に住んでいる親戚、友人、家族もクリスマスを祝うために帰国して来ます。スリランカでは、12月25日

は祝日です。12月24日の真夜中、信徒の皆さんは、新しい服を着てクリスマスミサに参列します。ミサ後は、カトリック教徒に限らず宗教関係なく、みんなで集まってクリスマスパーティーに参加します。お互いにクリスマスプレゼントを交換し、みんなでクリスマス料理を食べて楽しみます。12月25日の朝には、スリランカではお祝い事に欠かせない伝統料理である「キリバット」を食べます。これは、白米とココナッツミルクを使った料理です。

12月の1カ月間、児童養護施設や老人ホームを訪問し、食べ物や贈り物を配ります。また、病院を訪問して慈善活動を行います。そして、12月31日、新年の夜明けを祝って、カトリック教徒のクリスマスシーズンは終わります。



2020年 降誕祭と新年のミサ

「主の降誕(夜半)」のミサ 12月24日(木)

15:00~ 75歳以上の方

17:00~ ※外出不安な方は菊池大司教により

19:00~ ミサ参列の義務は免除。

21:00~ ※ミサの参列は24日・25日のどちらか一方

「主の降誕(日中)」のミサ 12月25日(金)

9:00~ 歌唱はなく 唱えるのみ

11:00~

2021年1月1日(金)元旦 9:00~

「神の母聖マリア」のミサ 11:00~

みことばの祭儀



9月11日より毎週金曜日に高齢者を対象に「みことばの祭儀と聖体拝領」の式がとりおこなわれている。

信者動静

2020年10月~12月

(個人情報のため、削除しています)